

# 歴博 くらしの植物苑だより

第108回くらしの植物苑観察会 3月22日(土)

## 古代のウメとサクラ

仁藤 敦史(国立歴史民俗博物館)

### はじめに

古代の竹木や草本の種類は、『万葉集』や『枕草子』『源氏物語』などの文献によれば、重複を除けば合計約二百種ほどが知られています。なかでも春の花としてもっともポピュラーなのは、梅と桜とすることに異論は少ないと思われます。

そこで今回は、以下のような項目で文献に表れた梅と桜についてお話したいと思います。

### 文学にみえる梅と桜

- ・「百人一首」の花

七種の春の花

古い歌のウメ(2首)から新しい歌のサクラ(5首)への転換

- ・『万葉集』の花

梅—中国風/人工/園 大陸渡来 早春 先端文化

桜—日本風/自然/山 神祭り 在来文化

- ・『古今集』の花

鶯と梅/立春(現在の2月初旬)との関係で詠まれる花は梅か

桜を花と詠む例—「花といえば桜」という観念は『古今集』から

『万葉集』での「柳と梅」のセット関係から「柳と桜」(みやこの情景)への転換

- ・『伊勢物語』の花

桜の散る美しさだけでなく、人の心のうつろいやすさ、桜花の散る様子が「老い」をも隠す神秘的な力を感じさせた。

- ・『源氏物語』の花

紅梅は色、白梅は香りを楽しむもの

「京の花ざかり」と「山の桜」＝自然の象徴の対比

満開の桜は「仏のおはする所」＝極楽浄土に続く

梅一句宮・薫の君／紫の上ー桜

## 古代社会と花

- ・神話伝承の桜

コノハナサクヤヒメと桜

- ・梅は外来語か

中国語では梅は「ンメイめい」

- ・鎮花祭ハナズメマツリ

花が枝にこびりつく梅ではなく、嵐のように散り様の桜に漠然とした不安感

- ・やすらい花

鎮花祭を京都で再生させたものか

- ・花宴

現在の四月初旬に私的に天皇が桜の花を愛で歌舞音曲を楽しむー花見の原形

- ・右近の橘、左近の桜

平安宮の内裏正殿である紫宸殿(南殿)の前に橘(東側)と桜(西側)

右近衛府と左近衛府の陣

「左近の梅」から「左近の桜」へ

---

## 次回予告

第109回くらしの植物苑観察会

2008年4月29日(火)

(歴博みどりの日)

**「新緑の城址公園を歩く」**

中川 重年(当館客員教授)

13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要 要入苑料